

琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

BY
net

びーわい・ネット



琵琶湖・淀川流域圏 下流と上流 人と川が繋がって
1600万人の水のえん

高度成長に伴い、物の豊かさや便利さと引き換えに、豊かな自然や人情など多くのものを失ってきたことに気付いた人たちによって

「生態系の調査や保全活動」「自然再生への挑戦」「人と自然・人と人とのつながりを取り戻そうとする活動」など様々な取り組みが始まりました。

2006年、私たちはこうした取り組みを共有し、

琵琶湖・淀川上下流の交流を通じて相互理解を深め、

個々の活動をつなぐことで、流域圏の再生を

めざせればとの思いで

「琵琶湖・淀川流域圏連携交流会」を設立しました。



河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。

河川清掃の状況

2011年はどうだったでしょう…

1. 河川清掃実施区間の総距離

淀川水系の基幹流路延長距離は75kmなので団体等の清掃延長距離はその3倍にあたります。

	全体	滋賀県	京都府	大阪府
延長距離	235,513m	101,008m	69,495m	65,010m
1団体当たりの延長	1,500m	1,597m	1,389m	1,625m
1か所当たりの延長	1,226m	1,052m	1,286m	1,101m
有効回答団体数	157	67	50	40
有効回答箇所数	209	96	54	59

2. 清掃に参加された年間延べ人数

河川清掃に参加のボランティアの年間延べ人数は流域人口1450万人の約0.4%になります。

	全体	滋賀県	京都府	大阪府
参加延べ人数	61,775人	28,389人	13,480人	19,906人
有効回答団体数	159	68	50	41
1団体当たりの年間延べ人数	388人	417人	216人	485人

3. 河川を清掃する目的

清掃の目的については右の表の通りです。また全体の41%の団体が子供と一緒に清掃活動を行っています。

	総計		滋賀県	京都府	大阪府
川を美しくしたい	131	81%	52	42	37
生きもののため	82	51%	33	28	21
子どもの環境教育	66	41%	25	22	19
安心して利用できる川	56	35%	15	22	19
前からしている	40	25%	20	13	7
イベント企画	25	15%	8	7	10
行政からの依頼	18	11%	8	2	8
その他	36	22%	16	13	7
回答団体数	162		69	50	43

4. 活動の継続に必要な事項

活動の継続に必要な事項については右の表の通りです。もっと多くの参加を望んでいることがうかがえます。

	総計		滋賀県	京都府	大阪府
より多くの参加者	85	52%	33	27	25
資金・資材の援助	83	51%	36	24	23
自治会等地域との連携	78	48%	36	22	20
河川管理者との連携	68	42%	24	22	22
上下流の団体との連携	39	24%	18	13	8
活動のPR	38	23%	13	14	11
活動へのアドバイス	13	8%	4	6	3
その他	13	8%	5	6	2
回答団体数	162		69	50	43

前回の調査から7年！ 河川清掃の実態調査を行いました。

今回の調査に参加いただいた団体は81団体でした。
前回と参加団体等の数は違いますが、共通して見えてくるものがあります。
また今回はごみについての実態も調査し、裏面に結果を記載しました。

	全体	滋賀県	京都府	大阪府	その他
延長距離(m)	99,610m	43,430m	46,780m	7,750m	1,650m
1か所当りの延長	922.3m	868.6m	1,231m	484.4m	412.5m
有効数/回答団体数	72/81	34/37	26/28	10/14	2/2
清掃実施個所数	108か所	50か所	38か所	16か所	4か所

	全体	滋賀県	京都府	大阪府	その他
参加延べ人数	17,346人	9,885人	5,175人	2,286人	110人
実施回数	603回	264回	196回	111回	32回
1回当たりの平均参加人数	約29人	約37人	約26人	約21人	約3人

	総計		滋賀県	京都府	大阪府	その他
川を美しくしたい	64	88%	32	22	8	2
生きもののため	31	42%	16	11	4	0
子どもの環境教育	29	40%	15	9	5	0
安心して利用できる川	40	55%	15	15	8	2
前からしている	32	44%	21	7	4	0
イベント企画	16	22%	4	9	3	0
行政からの依頼	12	16%	8	3	1	0
その他	11	15%	2	7	2	0
有効数/回答団体数	73/81		34/37	26/28	11/14	2/2

	総計		滋賀県	京都府	大阪府	その他
より多くの参加者	53	71%	24	21	7	1
資金・資材の援助	38	51%	23	10	5	0
自治会等地域との連携	50	67%	27	13	8	2
河川管理者との連携	41	55%	21	12	8	0
上下流の団体との連携	18	24%	8	7	3	0
活動のPR	27	36%	15	9	2	1
活動へのアドバイス	8	11%	3	3	2	0
その他	8	11%	4	3	1	0
有効数/回答団体数	75/81		36/37	27/28	10/14	2/2

1. 河川清掃 実施区間の総距離

回答数が前回の半数であることを踏まえて結果を見てみると、あまり変わりはないといえます。

2. 清掃に参加された 年間延べ人数

前回と質問項目が若干違うため単純比較はできませんが、各団体が年間に多くの回数を実施していることがわかります。

3. 河川を清掃する 目的

川を美しくしたいという思いが、群を抜いています。それはとりもなおさず、2番目に高い数値の「安心して利用できる川」にしたいという思いでもあります。しかしそうした思いを持っているのは流域圏1600万人のうち僅か0.001%に過ぎません。

4. 活動の継続に必要な 事項

継続に必要な事柄については、「より多くの参加者」を望んでいることがうかがえます。2番の「1回当たりの参加人数」の平均が29名ということからもうなずけます。

琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

今回のアンケートでは“清掃活動で目立ったごみ”と“マイクロプラスチックの問題についての意識と取り組み”についても実態を調査しました。
マイクロプラスチックについては、行政の関係機関にもアンケートをお願いしました。

目立ったごみでは…

	全体	滋賀県	京都府	大阪府	その他
ペットボトル等のプラごみ	50	25	17	7	1
食品包材	6	2	3	1	0
缶	40	25	8	6	1
ビン	9	6	0	2	1
たばこの吸い殻	16	3	9	4	0
その他	バイク・自転車・倒木・雑草・鉄くず等				
レジ袋やビニール袋片等	31	12	12	6	1

ペットボトル等のプラごみが群を抜いて多いことがわかります。またその他として、バイク・自転車等の大型ごみの不法投棄、倒木などが上がっていました。また雑草という回答が多かったのですが、雑草はごみと認識されているのでしょうか

マイクロプラスチック問題に対する意識取り組み調査結果は…?

データ有効数・・・団体等：70/81 行政機関：13/15

Q. 現在問題になっているか			Q. 今後は問題になるか			Q. 取り組みの有無		
	団体	行政		団体	行政		団体	行政
はい	17	8		/	/	取り組んでいる	12	8
						現在は取りくんでいないが、今後は取りくんでいこうと考えている	3	
						現在取り組んでいないし今後も取り組む予定はない	2	
いいえ	53	5	思わない	20				
			問題になると思う。何らかの取り組みをしたいと思う	10	5			
			問題になるとは思うが、取り組みは考えていない	19				

活動団体から、アンケートに寄せられた声は会員や地元住民への情報提供や地道な清掃活動と、行政に対する規制強化の要望等がありました。

行政機関からの回答にあったコメントからは、国の動向を注視しながら取り組みを進めていくという姿勢と、併せて、不法投棄対策や、発生源等の調査など独自の取り組みや、地域との連携姿勢がうかがえました